

宝塚市から被災地へお見舞いと激励の訪問

■平成23年(2011年)3月19日(土)

阪神・淡路大震災の折りに支援を受けた福島県須賀川市に対し、市職員2名を派遣し、義援金2,000万円と宝塚市すみれ会から15万円をお届けしました。

■平成23年(2011年)4月14日(木)・15日(金)

中川市長は被災地の状況把握と支援調査のため、岩手県大船渡市、大槌町、遠野市を訪問しました。

大船渡市と大槌町には、それぞれ100万円のお見舞金をお贈りするとともに、市民からの励ましの寄せ書きやメッセージをお届けしました。

遠野市は、後方支援基地になっており、遠野市長から詳しくお話をお伺いするとともに、支援物資の配送センターなどを視察しました。

【大船渡市】 4月14日

戸田公明大船渡市長(中央)、
大船渡商工会議所会頭と面談▶



◀宝塚市民による励ましの寄せ書き

【大槌町】 4月15日

東梅政昭大槌町副町長
と面談▶



◀宝塚市立宝梅・宝塚中学校からの励ましのメッセージ

【遠野市】 4月15日

本田敏秋遠野市長(中央)
と面談▶



◀支援物資の配送センターを視察



中川智子市長、山下稔副市長が自らお見舞いと激励のため被災各地を訪問しました。
被災地の声、ニーズなどを直接お聞きして今後の復興支援活動に反映していきます。

■平成23年(2011年)11月16日(水)・17日(木)

震災発生から7ヶ月が経過し、今後の支援活動を的確に実施していくため、震災後に支援協定を締結した宮城県女川町、南三陸町並びに阪神・淡路大震災時に支援をいただいた福島県須賀川市を訪問しました。

女川町と南三陸町には、それぞれ100万円のお見舞金をお贈りし、須賀川市には市民からの励ましの寄せ書きをお届けしました。

【女川町】 11月16日

須田善明女川町長(左)
と面談▶



◀女川港を視察し
献花

【南三陸町】 11月16日

佐藤仁南三陸町長と面談▶



◀防災対策庁舎
で献花

【須賀川市】 11月17日

橋本克也須賀川市長と面談▶



◀宝塚市民による励
ましの寄せ書き



■平成23年(2011年)4月30日(土)・5月1日(日)

山下稔副市長が福島県須賀川市、宮城県仙台市、南三陸町を訪問し、被災状況を確認するとともに、須賀川市には宝塚市職員からの義援金100万円、仙台市には宝塚市からの見舞金50万円、南三陸町には宝塚市職員からの義援金30万円をお届けしました。また宝塚市民からの「励ましのお手紙」、「寄せ書き」も各市町にお届けしました。



須賀川市 橋本克也市長(右)



仙台市 曳地泰志危機管理監(右)



南三陸町 佐藤仁町長(右)

■平成23年(2011年)5月20日(金)・21日(土)

福島県須賀川市、岩手県大船渡市、陸前高田市、宮城県登米市、石巻市、南三陸町、女川町を訪問し、被災状況を視察するとともに、須賀川市と大船渡市に、株式会社手塚プロダクションから寄贈を受けた手塚治虫のマンガをそれぞれ435冊ずつお届けしました。



須賀川市に贈呈



大船渡市に贈呈



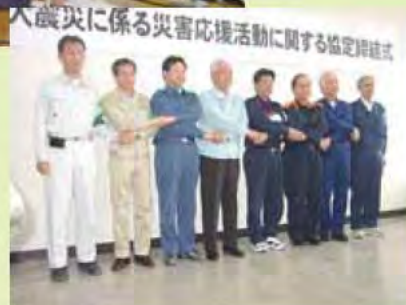
手塚治虫作品のマンガ本

阪神3市1町と宮城県2市2町による災害応援活動協定

平成23年(2011年)5月18日、西宮市役所において、西宮市、宝塚市、川西市及び猪名川町は、「兵庫県阪神支援チーム」として、宮城県南三陸町及び女川町を支援するため、現地でその後方支援をしている宮城県栗原市及び登米市を加えて災害応援活動協定を結ぶことを発表しました。

5月21日には、登米市役所にてその締結式が行われました。

今後は相互に協力し、職員の派遣など長期的な支援を行うことで1日も早い復興を応援していきます。



一日も早い復興に向けて 職員派遣による被災地復興支援

津波により役場庁舎が流されたばかりでなく、多くの職員が犠牲となった被災地では、行政機能の回復すら困難を極めていました。被災地の一日も早い復旧、復興のためには、まず行政組織を立て直すことと、復興業務に携わる職員を確保することが必要でした。

カウンターパートによる支援が有効であると宝塚市は西宮市、川西市、猪名川町とともに阪神支援チームを組み、宮城県南三陸町と女川町へ職員派遣を開始しました。

南三陸町へは発災後の6月から、また女川町へは12月から職員の派遣を開始し、それぞれ2名の職員が復興業務に活躍しています。また、発災直後から給水活動や支援物資を搬送した岩手県大槌町へも、市独自で職員1名を派遣しています。

派遣職員も、単身で慣れない地での仕事には精神的に負担となっているものの、地元の皆さんに逆に励まされながら、やりがいを感じて日々元気で業務に取り組んでいます。

■南三陸町

復興計画を説明する職員



■女川町



復興計画ワークショップ



意向調査に応える職員

■大槌町



復興計画を説明する職員



津波で全壊した庁舎

岩手県大船渡市の中学生を宝塚市に招待

大船渡市の中学生を宝塚市に招待し、宝塚市立中学校の生徒たちとのスポーツ交流や市内観光などを行いました。大船渡市との交流は、平成24年(2012年)で2年目を迎えました。

平成23年(2011年)8月1日(月)～4日(木)

大船渡市立第一中学校サッカー部員16人と同市立大船渡中学校バレーボール部員11人を宝塚市に招待しました。

運動場は仮設住宅が建ち並び、体育館は避難所となっているため、思う存分体を動かさない生徒たちは、久しぶりに広い場所で汗を流しました。

試合後の懇親会では、宝塚の中学生側から大船渡市の中学生にメッセージ入りのボールをプレゼント。とても喜んでくれました。



笑顔いっぱい
がんばりました。

■平成23年(2011年)8月7日(日)～10日(水)

大船渡市立綾里中学校の野球部員15人と同市立第一中学校のバスケットボール部員10人を宝塚市に招待しました。

十分に練習ができない状況の両校生徒たちは、宝塚市の中学生とスポーツを通じて交流をしました。9日には阪神甲子園球場を訪れ夏の高校野球を観戦し、大船渡市と友好関係にある秋田県能代市の能代商業高校を一生懸命応援しました。



何よりの
“絆”づくりです。

■平成24年(2012年)8月7日(火)～10日(金)

岩手県から新幹線とバスを乗り継いで、宝塚市へやってきた大船渡市の中学生たちは、歓迎会で元気な笑顔を見せてくれました。

翌日からはサッカー、ソフトテニス、卓球の種目に分かれ、大船渡市と宝塚市の中学生らが一緒にスポーツで汗を流して交流しました。9日は阪神甲子園球場で高校野球の観戦をしたり、給食を一緒に食べたり、手塚治虫記念館など宝塚市内の観光を楽しみました。



大船渡市の中学生からの メッセージ

震災の影響で、自由に部活動が出来なかった私たちでしたが、このスポーツ交流事業を通じて、思いっきり交流試合などができて、うれしかったです。また、甲子園球場や手塚治虫記念館の見学など感動の連続でたくさんの元気をもらいました。

思いっきり体を動かすことができているのが嬉しい。これからも友好関係を築きたい。

様々な支援活動（2011年）

震災直後より市民をはじめ、多くの方々から物資のご提供や義援金のお申し込み、ボランティア活動のお申し出など、様々なご支援とご協力をいただきました。

■ 阪神・淡路大震災時のノウハウを提供

阪神・淡路大震災の発生後、市民からの電話問い合わせに対応するため作成した「災害対策本部電話対応資料」を、東日本大震災の被災自治体のうち、38の自治体に対して4月8日付けで送付しました。また、市ホームページにも同資料を掲載し、各自治体からは「大変役に立った」とのお礼の電話をいただきました。



■ 支援物資の受け付け・搬送

3月22日から4月30日まで支援物資の受け付けを行いました。市民をはじめ、多くの方々から支援物資をご提供いただきました。また、支援物資の受け付けには多数のボランティアの方々にもご協力いただきました。



■ 応援メッセージをお届け

阪神・淡路大震災では、家族や自宅を失い悲しみに打ちひしがれている時、全国から届けられたたくさんの励ましの手紙やメッセージカードに元気をいただきました。今度は私たちがお返しする番です。みなさまから寄せられた心温まるメッセージを被災地にお届けしました。



■ 被災地支援活動のパネル展示

市役所の市民ホールやJR宝塚駅と阪急宝塚駅の連絡通路で、被災地支援活動を紹介するパネル展示を行いました。(5月9日～6月5日)



被災地支援活動報告会を開催

5月15日（日）14時から、市役所3階大会議室で、市の被災地・被災者に対する支援活動の報告会を開催しました。またその中で、ボランティアによる被災地支援を行う宝塚希望応援隊の発足を発表し、参加者を募集しました。



東北三県の物産展を開催

産業の支援として、6月4日（土）、5日（日）、阪急宝塚駅前ソリオ宝塚のメインプラザで、東北3県の銘菓、特産品などを販売する物産展を開催しました。笹かまぼこや喜多方ラーメンなど、東北名産の食料品を中心に約80種類が店頭に並び、すぐに売り切れる商品も出るなどの盛況ぶりでした。



義援金・支援金募金の受け付け

- 市役所本庁舎や各サービスセンターなどに募金箱を設置しました。皆様からお寄せいただいた義援金の総額は、平成24年（2012年）10月31日現在で11,832,728円となり、日本赤十字社を通じて被災地へお届けしました。
- 宝塚市希望応援隊の派遣にあたり、広く市民の方にこれらの活動資金としての「支援金」を呼びかけたところ、多く方にご賛同いただきました。支援金の総額は、平成24年（2012年）10月31日現在、2,796,708円となりました。
- 市職員を対象に、3月15日から23日、7月4日から20日までの間、募金を呼び掛けたところ、計3,961,609円集まり被災地に義援金としてお贈りしました。
- 4月1日14時から阪急宝塚駅及び逆瀬川駅周辺で、市長、副市長、新規採用職員が募金の呼び掛けと被災地への励ましのメッセージや寄せ書きを募りました。約2時間で集まった募金214,291円は、日本赤十字社を通じ被災地へ届けられました。



宝塚市へ避難・転入された方への支援

避難のため宝塚市内に転入された被災者の方々の生活を支援するために、様々な情報提供や支援活動を実施いたしました。

■宝塚市内受入被災者の登録

宝塚市内に避難のため転入された被災者を把握し、被災時に居住していた自治体による支援情報や復旧、復興状況を情報提供するため、受入被災者登録の受付を行いました。

■宝塚市への避難者の方に見舞金を支給

東日本大震災で家屋被害を受けた世帯、東京電力福島第1原子力発電所事故で避難指示等を受けた世帯、及びこれらの世帯で医療機関から転院又は退院を余儀なくされた世帯の方で、本市に避難された方に対し、当座の生活費として見舞金を支給しました。

- ・単身(者)世帯に5万円
- ・2人以上の世帯10万円
- ・18歳以下の児童が含まれる世帯に児童1人につき2万円を加算

■被災児童支援費の支給

東日本大震災により被災した児童を受託した里親に対して、里親1世帯につき1人目の要保護児童30万円、2人目以上1人につき20万円を支給することにしました。

■被災者に対する手数料の免除

戸籍、住民票、印鑑登録などの証明書発行（住基カード発行を除く。）手数料を、東日本大震災による被災者及びその遺族または利害関係人に対し、4月19日から9月30日までの間、免除を行いました。

■市営住宅への受け入れ

東日本大震災の被災者で住宅に困窮している方を対象に、市営住宅15戸（10月7日から10戸）を次の使用条件により提供しました。

- ① 入居期間
（平成26年3月31日まで）
- ② 家賃及び敷金
免除（ただし、共益費、光熱費などは別途負担）
- ③ 提供する住宅の受け入れ条件
 - ・住居が全壊もしくは半壊の損害を受けられた世帯
 - ・原子力発電所の事故により、住居が国の指定する警戒区域・計画的避難区域・緊急時避難準備区域の区域内にある世帯
 - ・東日本大震災発生時点で福島県内に居住していた世帯で、被災証明を所持し、18歳以下の子を養育し、原子力発電所の事故を要因として本市に避難を希望されている世帯
（現在妊娠中の方も含む）（平成23年10月7日時点）

生活必需品の提供

東日本大震災で被災し市営住宅に入居された家族に対して、宝塚NPOセンターの募集によるボーイスカウトやシニア世代のボランティアが市民の皆さんから提供された家電製品や生活用品を搬入しました。



NPO法人による支援

● 「女性と子どものエンパワメント関西」によるカウンセリング

専門の女性カウンセラーが「女性のための面接相談」や「女性のための電話相談」を開設し、悩みや不安をお聴きしました。

● 「関西アロマセラピスト・フォーラム」によるアロママッサージ

被災者に無料でアロママッサージを体験していただくとともに、出かけにくい被災者には、ボランティアスタッフを自宅まで派遣しました。

● 「宝塚NPOセンター」による交流の場づくり・就労支援

月に1回、被災者同士の交流を目的とした集いの場「お茶っこカフェ」を開設し、生活の悩み相談や就職サポートを行っています。



被災地 はいま

震災直後は、メディアを通じて被災地の様子を知ることができましたが、震災から1年9ヶ月が過ぎたいま、被災地の様子が報じられることも少なくなりました。しかし、実際に訪れてみると復興までまだまだ時間がかかることがわかります。宝塚市が復興業務に従事する職員を派遣している岩手県大槌町、宮城県女川町と南三陸町のいまを追ってみました。

■ 大槌町

ホタテ、カキなどを中心とする水産業が盛んなまち。それが、震災を境に死者・行方不明者1,254人で6割の家屋が被害を受けるという深刻な被害に加え、加藤宏暉町長をはじめ40人もの役場職員が亡くなり、行政機能がストップしてしまいました。

その大槌町役場では、津波で全壊した小学校校舎を改修して仮庁舎として使用しています。北海道から沖縄まで全国から約70人もの応援職員が大槌町役場に派遣され、市街地整備や土地区画整理などの業務に当たっています。たくさんの応援が復興を担っています。



◀津波で全壊した
大槌町役場



◀被災した大槌町の町並み



▲大槌町仮庁舎。小学校校舎を改修して使用



▲皆が集う福幸きりり商店街

■ 女川町

サンマなどの漁業が盛んなこの女川町にも津波が襲いました。死者・行方不明者827人で、町内の建物の7割が全壊という甚大な被害。それでも、復興に向かって歩み始めた住民、役場職員らにお会いすることができました。みな、口を揃えて言っていた言葉は「3・11を忘れないで」。

▼漁港が津波で被災



▼3・11を風化させないために…



▲女川の商店が集う復興商店街



■ 南三陸町

親潮と黒潮がぶつかる好漁場の海とリアス式海岸に囲まれた美しいまちは、その地形が災いとなって津波にまちのほとんどがのみ込まれました。792人が死亡・行方不明となり、町役場、消防署、警察署のすべてが流出し、ライフラインも寸断されたため復旧は大幅に遅れました。

まだまだまちのあちこちでボランティアが活動する姿が目立ち、町役場職員や社会福祉協議会職員らも不眠不休の活動が続いています。

▼震災前のまちなみ (提供:南三陸町社会福祉協議会)



▼震災後、まちの風景は一変



◀防災無線で避難を呼び掛け続けた職員も亡くなった防災対策庁舎

▼がれきの処理に従事するたくさんの作業員



▲清掃に汗を流すボランティアの人たち

美しい漁業のまちが一転▶



▲仮設住宅には鮮やかな植栽が



▲小学校のグラウンドには仮設住宅が建てられています



■ これからの被災地へ

地震、津波で自宅を失った多くの被災者は、震災直後の避難所から慣れない仮設住宅への生活へと移りました。いち早い復興を目指して策定された「復興計画」は緒についたところであり、高台への集団移転や土地の買収、生活再建など課題は山積です。一日でも早い復興には集中的な職員の配置が必要であり、宝塚市では大槌町に1名、女川町、南三陸町にそれぞれ2名の職員を派遣しています。本市では、今後も被災地の復興に道筋が見えるまで、引き続き職員の派遣を行っていきます。

災害はいつどこで起こるか予想もできませんし、また人間がそれをコントロールすることも困難です。東日本大震災を教訓に、日ごろから災害への備えを怠らないことはもちろんのこと、この大きな災害を後世に引き継ぎ、忘れないための取組を継続していくことを誓います。

被災地支援活動の記録

2011年

3月11日(金) 14:46 東北地方太平洋沖地震発生

	第1次緊急消防援助隊出発	宮城県山元町・南三陸町
3月14日(月)	第1次給水応援隊出発	宮城県石巻市、岩手県大槌町
	第2次緊急消防援助隊出発	宮城県南三陸町
	第1回支援本部会議開催	
	市民からの義援金受付開始	
3月15日(火)	特例市支援物資搬送	茨城県水戸市
	第2回支援本部会議開催	
	職員からの義援金受付開始	
3月16日(水)	第3回支援本部会議開催	
3月17日(木)	第1次支援物資搬送	岩手県滝沢村
	第1次医療救護隊出発	宮城県南三陸町
3月18日(金)	第3次緊急消防援助隊出発	宮城県南三陸町
	第4回支援本部会議開催	
	市営住宅への受け入れ開始	
3月19日(土)	被災お見舞い	福島県須賀川市
	第2次給水応援隊出発	岩手県大槌町
3月22日(火)	第4次緊急消防援助隊出発	宮城県山元町・坂元町
	第5回支援本部会議開催	
	市民からの支援物資受付開始	
	下水道管路施設調査支援出発	宮城県松島町
3月24日(木)	第6回支援本部会議開催	
3月25日(金)	第1次炊き出し支援隊出発	岩手県大船渡市
3月26日(土)	第5次緊急消防援助隊出発	宮城県山元町
3月28日(月)	第2次医療救護隊出発	宮城県南三陸町
	第2次支援物資搬送	岩手県大船渡市・大槌町
	第7回支援本部会議開催	
	廃棄物処理現地指導支援出発	宮城県気仙沼市

	避難所運営支援出発	宮城県南三陸町
3月30日(水)	第6次緊急消防援助隊出発	宮城県山元町
3月31日(木)	第3次支援物資搬送	岩手県大槌町
	第1次現地調査隊出発	岩手県大槌町
4月1日(金)	第2次炊き出し支援隊出発	岩手県大船渡市
	子ども支援、健康相談支援出発	岩手県大船渡市
	新規採用職員が街頭募金	阪急宝塚駅・逆瀬川駅
4月3日(日)	第7次緊急消防援助隊出発	宮城県山元町
4月5日(火)	第8回支援本部会議開催	
4月7日(木)	第8次緊急消防援助隊出発	宮城県山元町
	第3次給水応援隊出発	岩手県陸前高田市
4月8日(金)	避難所運営支援出発	宮城県南三陸町
	災害対策本部電話応対資料送付	被災38自治体
4月11日(月)	第9次緊急消防援助隊出発	宮城県山元町
	宝塚市受入避難者見舞金制度施行	
4月12日(火)	第9回支援本部会議開催	
4月13日(水)	第4次支援物資搬送	宮城県南三陸町、岩手県大槌町
4月14日(木)	市長被災地訪問出発	岩手県大船渡市・大槌町・遠野市
4月18日(月)	被災地危険度判定支援出発	宮城県仙台市
	第10回支援本部会議開催	
4月19日(火)	証明手数料減免開始 9月30日まで	
	第11回支援本部会議開催	
4月22日(金)	第5次支援物資搬送	岩手県大槌町
4月25日(月)	第4次給水応援隊出発	岩手県陸前高田市
4月26日(火)	第12回支援本部会議開催	
4月27日(水)	子どもの心のケア支援部隊出発	岩手県大船渡市
4月30日(土)	副市長被災地訪問出発	福島県須賀川市、宮城県仙台市・南三陸町
5月2日(月)	第13回支援本部会議開催	
5月6日(金)	健康管理支援出発	宮城県南三陸町

5月9日(月)	被災地支援パネル展示	宝塚市役所市民ホール
5月10日(火)	第14回支援本部会議開催	
5月11日(水)	被災地支援パネル展示 6月6日まで	JR宝塚駅~阪急宝塚駅 自由通路
5月13日(金)	第5次給水応援隊出発	岩手県陸前高田市
	第3次炊き出し支援隊出発	岩手県大槌町
	被災者生活再建支援金業務支援出発	宮城県南三陸町
5月15日(日)	災害支援活動報告会開催	宝塚市役所大会議室
5月16日(月)	第5次支援物資搬送	宮城県看護協会
5月17日(火)	手塚マンガ本搬送	福島県須賀川市、岩手県大船渡市
5月18日(水)	兵庫県阪神支援チーム設置を発表	西宮市役所
5月19日(木)	町民税務課窓口業務支援出発	宮城県南三陸町
5月20日(金)	副市長被災地訪問出発	福島県須賀川市、岩手県大船渡市
5月21日(土)	災害応援活動協定書締結調印	宮城県登米市
5月24日(火)	第15回支援本部会議開催	
5月26日(木)	第3次医療救護隊出発	宮城県石巻市
	確定申告受付業務支援出発	宮城県南三陸町
5月27日(金)	第1次宝塚希望応援隊出発	宮城県南三陸町
6月2日(木)	被災者生活再建支援金業務支援出発	宮城県南三陸町
	震災復興計画策定業務支援出発	宮城県南三陸町
6月4日(土)	東北三県の物産展開催 6月5日まで	ソリオ1 メインプラザ
6月6日(月)	被災者生活支援ガイドブック配布開始	
6月9日(木)	第2次宝塚希望応援隊出発	岩手県大船渡市
	看護・介護等支援出発	宮城県気仙沼市
6月14日(火)	第16回支援本部会議開催	
6月17日(金)	震災復興計画策定業務支援出発	宮城県南三陸町
6月23日(木)	町民税関係業務支援出発	宮城県南三陸町
7月1日(金)	第3次宝塚希望応援隊出発	宮城県南三陸町・女川町
7月2日(土)	支援物資搬送	宮城県女川町
7月14日(木)	健康相談・健康調査支援出発	宮城県南三陸町

7月19日(火)	第17回支援本部会議開催	
7月23日(土)	第4次宝塚希望応援隊出発	宮城県気仙沼市
8月1日(月)	第5次宝塚希望応援隊出発	宮城県南三陸町
	震災復興計画策定業務支援出発	宮城県女川町
	大船渡市の中学生とスポーツ交流8月4日まで	宝塚市内
8月2日(火)	支援物資搬送	宮城県南三陸町
8月5日(金)	第6次宝塚希望応援隊出発	宮城県南三陸町
8月6日(土)	支援物資搬送	宮城県南三陸町
	塵芥収集業務支援出発	宮城県南三陸町
8月7日(日)	大船渡市の中学生とスポーツ交流8月10日まで	宝塚市内
8月8日(月)	第7次宝塚希望応援隊出発	宮城県南三陸町
8月14日(日)	塵芥収集業務支援出発	宮城県南三陸町
8月21日(日)	塵芥収集業務支援出発	宮城県南三陸町
8月22日(月)	第18回支援本部会議開催	
8月28日(日)	塵芥収集業務支援出発	宮城県南三陸町
9月1日(木)	震災復興計画策定業務支援出発	宮城県女川町
10月1日(土)	選挙事務支援出発	宮城県南三陸町
11月16日(水)	市長被災地訪問出発	宮城県女川町・南三陸町、福島県須賀川市
11月21日(月)	第19回支援本部会議開催	
12月16日(金)	第8次宝塚希望応援隊出発	宮城県南三陸町
2012年		
3月16日(金)	第9次宝塚希望応援隊出発	宮城県南三陸町・女川町
4月30日(月)	市議会議員が被災地を訪問	岩手県遠野市・大船渡市・大槌町
6月8日(金)	第10次宝塚希望応援隊出発	宮城県南三陸町
8月7日(火)	大船渡市の中学生とスポーツ交流8月10日まで	宝塚市内にて

思いよ、届け！



東日本大震災 被災地支援活動の記録

平成 24 年 (2012 年) 12 月発行

頒価 500 円 (税込み)

編集・発行 宝塚市 都市安全部 危機管理室 総合防災課

宝塚市東洋町 1-1 電話 0797-71-1141 (代表)